

社会福祉法人狛江市社会福祉協議会
平成31年度第1回地域福祉活動計画策定委員会会議録

1 日時

令和元年6月4日(火) 13:30~14:45

2 場所

あいとぴあセンター講座室

3 出席者(敬称略、名簿順)

委員：中村 美安子、佐土原 耕平、市川 衛、石黒 昌和、森井 道子、
河西 信美、栗山 勝美、大久保 幸藏、小林 万佐也、荒井 重昭、
岡本 起恵子、小川 正美、小川 和江、
事務局：小楠 寿和、竹中 石根、高橋 宗孝、大塚 隆人

4 欠席者(敬称略、名簿順)

委員：松村 雪子

5 議題

- (1) 委嘱状交付について
- (2) 委員紹介
- (3) 委員長及び副委員長の選出について
- (4) 進捗状況の報告、評価の確定等

—配布資料—

- (1) 次第
- (2) 第3次地域福祉活動計画進捗状況報告書
- (3) 平成30年度コミュニティソーシャルワーカー(CSW)活動報告書
- (4) 平成30年度福祉カレッジ実施報告書
- (5) 第3次地域福祉活動計画

6 会議の結果

(1) 委嘱状交付について

<机上配布にて委嘱状を交付>

(2) 委員紹介

<出席委員の自己紹介>

(3) 委員長及び副委員長の選出について

(事務局)

委員長及び副委員長の選出については、自薦他薦問いませんが、どなたかいらっ
しゃいませんか。

(委員)

事務局一任。

(事務局)

事務局一任との声がありましたので、事務局としては、委員長に市川 衛様、副
委員長に中村 美安子様を推薦したいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(委員)

<拍手全員>

(事務局)

全員の拍手で了承されましたので、市川 衛様に委員長を、中村 美安子様に副
委員長をお願いいたします。

なお、委員会の議事進行については、地域福祉活動計画策定委員会設置要綱第6
条の規定により、会議の議長は委員長が務めるということになっておりますので、
これからの議事の進行は議長にバトンタッチさせていただきます。

(4) 進捗状況の報告、評価の確定等

(委員長)

本日の議題に沿い進めさせていただきます。進捗状況の報告、評価の確定等につ
いて事務局から説明をお願いします。

(事務局)

<配布資料の確認>

<平成31年度第1回地域福祉計画策定委員会の目的・地域福祉活動計画の概
要・進捗状況報告書の説明>

(委員長)

これについて、ご意見やご感想はありますか。

(委員)

進捗状況評価シートで、例えば4ページで主な事業成果は「特段大きな成果は得ら
れなかった」となっていますが、今年度の主な問題では「特段大きな問題は認められ

なかった」となっています。なぜ「特段」という文言を使わなければならないのでしょうか。

(事務局)

細かな成果でなく、大きな成果を記載することにしました。評価のひとつとして事業目標の中の数値目標があります。その他定性的な成果や数字では表せない成果を書くニュアンスでした。問題についても、事業運営に支障があるような大きなことをピックアップする意図でした。「特段」という表現については、好ましくなかったかもしれません。別の表現での工夫・検討をします。

(委員)

小さな声や成果でも入れるべきものは入れていくことが大事ではないでしょうか。懇談会などに参加していただいた市民の方の声があれば反映させてください。

(委員)

「特段大きな成果は得られなかった」というマイナスの表現ではなく、大きな成果でなくてもよいのではないかと感じました。実績を見ると具体的な成果が書かれているので、もう少しプラスに記載したほうがよいと思います。

(事務局)

ご意見を踏まえ、評価シートを工夫します。

(副委員長)

提案ですが、「課題」は次に向かう意味がありますが「問題」はあってはならないことであり、「問題」を「課題」と表記を変えてはどうでしょうか。

(委員)

質問ですが、評価シート6ページで認定ヘルパー研修を3回実施していますが、各回の参加者数にばらつきがあります。応募人数にばらつきがあるのでしょうか。定員は同じでしょうか。

(事務局)

定員は同じです。

(委員長)

実施月はいつでしょうか。

(事務局)

6月、10月、2月に実施しています。

(委員)

質問ですが、評価の部分の、委員会の位置づけですが、事務局としては特段大きな成果は得られなかったと評価しても、委員会の評価を出してよいのかということが1

点。2点目は、評価シート6ページの福祉人材の成果として、担い手創出につなげることができ、その後修了生が情報交換会などを行っているということですが、社協との関わりはありますか。あるいは新しい事業の方向性などは考えていますか。

(事務局)

評価については、委員会でご意見いただき、変更できます。

新たな人材と社会福祉協議会とのつながりですが、これまでつながりのなかった方の参加がありました。狛江市内在勤で、社会福祉関係の仕事をしている人たちです。会場をこまえくぼ（市民活動支援センター）にしたことや、ポスティングの成果があったのかもしれませんが。開始時刻が夜7時ということもあり、自宅が会場に近い方は参加しやすかったことでしょう。

新たな人材とのつながりですが、社協は他にもさまざまな講座を行っています。その情報を新たな人材に流していくことで、従来から行っている事業につなげていくことができています。新たな活動者のフォローアップはコミュニティソーシャルワーカーが継続的にフォローアップを行い、つながっています。

(委員)

調布社協でも、興味がありながら参加に至らない方の掘り起こしの課題があるので、活用できるのは良いと思いました。

(委員)

重点事業で、コミュニティソーシャルワーカーの評価はAですが、福祉カレッジはBなのでなぜかと思いました。もうひとつの認定ヘルパー研修の参加者が目標値に達しず、人数は少なかったのですが、市内事業所への就労にはつながっているので、成果が出ていると思いました。一方、福祉カレッジは19名の方の参加があり、その後の組織化、自分たちで活動を始めたことなど、成果がありますが、認定ヘルパーは元々参加者が少ない事業なのでしょう。

(事務局)

初年度は申込が多かったのですが、2年目は減ってきています。委託事業ですが、周知面で工夫をしながら新たな人材の掘り起こしにつなげていきます。

(委員)

同じ重点事業なので、数値的なことで評価が異なるのが残念に思いました。

(委員)

実績値のところですが、細かいことでも良い内容もあります。特段ということがあるとは思いますが、今後につながるのでは入れたほうが良いと思います。

評価シートの5ページ「今後の主な問題」で、手話入門講座は受講者が目標値に達しなかったとなっていますが、どのような理由で目標に達しなかったのでしょうか。もともと目標設定が高かったのかもしれませんが。見返した時に振り返りができるシートになると見やすく良いと思いました。

(事務局)

ご意見をふまえ、評価シートの表記、形式を見直します。

(委員)

評価シート 13 ページの福祉のまちづくり委員会（仮称）の設置の評価がCになっています。2年ごとに6年かけて設置していく計画だと思いましたが、どのように目標を達成していくのでしょうか。構成員として各関係団体の方々を予定していると書かれていますが、具体的なスタートの段階で何をされたのでしょうか。インタビューや懇談会がどのように委員会につながるのか分かりませんでした。

住民が主体的に解決に向けてどのような連携が取れるか、大変関心があります。福祉の課題は市民の暮らしの大部分を占めます。そこにどのようなメンバーで、どのような決定権をもたせるのか、予算をどう考えるか、準備段階で検討することが必要ではないでしょうか。

構成メンバーはそれぞれが活動をしており、そこでの課題もあります。組織化されていない一般の方の声を基にスタートするというやり方であれば良いと思いますが、現在ある既存の福祉団体を構成員にするのであれば、そこの方々の課題を聞かなくてはならないのかなと思いました。成果としてはよいと思いますが、いろいろな団体がいろいろなことをしています。

社協が音頭を取り、まちづくり委員会を組織化していくのであれば、何が必要なのか、関係者から意見を聞いてやっていかないと、目標期間に全市に3か所できるのかどうかと思いました。C評価ですが、BやAにしていくためにどうすればよいかということ指摘させていただきました。

(事務局)

主な事業成果の部分で、立ち上げ・運営に関するノウハウを集めることができたことと記載していますが、組織化のためにどのようなノウハウが必要なのか、社協として不足している部分もあります。評価がCになってしまったのは、準備会が立ち上がらなかったためです。

(副委員長)

成果、問題・課題、今後の取組みの部分をもう少し書き込んだほうが良いという意見が今、委員から出されていると思います。例えば評価シート6ページの成果のところをみると、社協と接点のなかった方とつながったことが重要な成果だと思いますが、今後の課題をみると、その成果とのつながりがありません。詰め込みすぎたという課題が示されていて、これに対し、解決策が「定員は減らす」とあるので、ここもつながっていません。成果、課題をつなげると、きちんとしたまとめになると思いました。

今回、地域福祉活動計画をスタートさせ、以前の計画より、重点事業として「アウトリーチする」とか、「地域で考えている人たちの組織をつくる」とか、今地域に求められていることに積極的に取組み始められていると思います。ノウハウの部分で見つけられていない部分はあるものの、まだ1年目ですから、狛江市社協全体としてここが課題だという総合的な観点については、2年目にしっかり伺えれば良いと思います。

評価シート6ページの福祉人材の育成でいえば、担い手の養成には社協ならではの観点が出てくると良いと思います。委託事業だけでなく、社協がやることで、他がやらないような「地域福祉」がまぶされているような、例えばその人たちが地域の活動を始め、受講経験が狛江市のまちづくりにつながるようなニュアンスが成果と課題に出てこない、どうしても、「人数が」、「プログラムが」、ということになってしまいます。全体を通しての地域福祉活動計画なので、直接まちづくりでなくても、社協がやるからには必ずまちづくりのトッピングがなされるといいなという感想を持ちました。

(事務局)

手話通訳をしている方は聴覚障がい者の問題だけでなく、幅広く問題を捉えている方が多いです。聴覚障がいや中途失聴の方が年を取ると、デイサービスになかなか馴染めない、居場所がないという現状を把握し居場所づくりを始めたり、通院の介助や権利擁護の課題に対しては、あんしん狛江の支援員の活動を始めたり、ヘルパーの資格を取って手話のできるヘルパーとして活動したり、課題を見つけ、それに対し自分ができる活動をされています。何かしら地域福祉活動につながっている面があるのではないかと思います。

(副委員長)

課題の部分に、例えば「聴覚障がいの方のニーズを把握することができなかった」とか、「参加者にニーズを伝えきれなかった」といった観点の反省が入ってくると良いのではないかと思います。

(委員長)

これまで出た意見を踏まえ、事務局から何かありますか。

(事務局)

進捗状況報告書につきましては、本日委員の皆様からいただいたご意見をもとに修正をさせていただきます。

次回の委員会は来年度になります。ただ、6年間の計画であり、3年目には見直しを入れる予定ですので、年度末頃に進捗管理ではなく、計画の改訂として正副委員長に相談させていただきながら会議開催のスケジュールを組んでいきます。

(委員長)

福祉カレッジに、現職の民生委員が参加しました。受講後は意識付けがされ、活発に意見を言うようになりました。成果の一つとして報告させていただきました。

本日の議事はすべて終了しましたので、これで委員会を終了します。